

ふるさと教育 取組事例

学校名	飯南町立志々小学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
2	生活科	どきどき わくわく まちたんけん もっと なかよし まちたんけん	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域で働く方々 ・ うぐいす茶屋・明眼寺・志々郵便局・志々駐在所・ニチフレ島根・志々公民館・さつき保育所 ・ 公民館事業（陽サロ2号店）
ねらい	地域の人と関わったり、地域のさまざまな場所を訪問したりする活動を通して、自分たちの生活は地域の人や場所と関わっていることや、地域で働く人々が地域に寄せる思いに気づき、志々地域に親しみや愛着をもつことができる。		
<p>1 取組の概要</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 志々の町（おすすめの場所や人）について話し合う 2) 町探検の計画を立てる 3) 志々の町を探検して、志々の「きらり」（良いところ・紹介したいところ）を見つける 4) 見つけた志々の「きらり」を伝え合い、「ししきらりマップ」にまとめる 5) もう一度探検に行って、インタビューをしたり、不思議に思ったことを質問したりする 6) 志々の町の「きらり」を見つけて分かったことを話し合う 7) 小小交流会や学習発表会で志々の町の「きらり」を発表する <p>2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。</p> <p style="margin-left: 20px;">（ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から）</p> <p>(1) ふるさとの「ひと・もの・こと」と体験的に繰り返し関わり、地域で働く方々の思いに気づくことができるようにする。</p> <p style="margin-left: 20px;">児童の「もっと詳しく知りたい」「実際に行って確かめたい」といった思いを大切にしながら、様々な場所を訪問したり、働いておられる方にインタビューをしたり、地域活動に参加したりして、「ふるさとのよさ」への理解を深める。</p> <p>(2) 探検先で見つけた「きらり」を地図にまとめることで、地域で働く方の思いに気づくことができるようにする。</p> <p style="margin-left: 20px;">探検後は「ししきらりマップ」（地図）に、町探検で見つけた「きらり」をまとめていき、自分が学習した証を目に見えて積み重ねられるようにする。志々の町の「きらり」について話し合う時には、見つけた志々の町の「きらり」を比べたり、つなげたりしながら、志々地域の人は、「お客さんや地域のために」という思いをもって仕事をしていることに気づくことができるようにする。</p> <p style="margin-left: 20px;">（学力育成の視点から）</p> <p>(3) 他教科とのつながりを意識したカリキュラムマネジメントにより、学ぶ意欲の向上を目指す。</p> <p style="margin-left: 20px;">国語の「『ありがとう』を伝えよう」の学習で、町探検でお世話になった人に向けて手紙を書き、「感謝の気持ちを伝えたい」という思いを高める。</p> <p>(4) 見つけた「きらり」を発表する場を設け、子どもたちの表現力の向上を目指す。</p> <p style="margin-left: 20px;">小小交流会や、学習発表会で志々の町の「きらり」を発表し、伝える相手を意識しながら発表の内容を考えることができるようにする。</p>			



3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身に付いたか等）

（ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から）

（1）1回目のうぐいす茶屋の町探検では「大判焼きは熱いのに、手でひっくり返すところがびっくりした。」といった気付きが多かったが、2回目の町探検では、うぐいす茶屋で働く方に質問したり、お客さんにインタビューしたりしたことで、「うぐいす茶屋で働く栃木さん・高岡さんの『お客さんに美味しいと思ってもらいたい』という気持ちがお客さんに届いて、お客さんが本当に「美味しい」と言っているのがすごいと思った。」「高岡さんが朝早くからそば打ちを頑張れるのは、お客さんに美味しいと思ってもらいたいという気持ちがあるからだと思った。」といったように、働いておられる方の思いや努力にも目を向けるなど、児童の気付きの質が高まった。

（2）町探検で見つけたことを「ししきらりマップ」にまとめた後、マップのタイトルを付ける活動では、「頑張る人がいっぱいなしの町」「元気なしの町」とタイトルを付けていた。これは、「町探検で出会った人たちが頑張っているおかげで、私や志々の町のみんが元気に暮らすことができる」という思いから考えられたものであり、志々地域に対する親しみや愛着をもつことができた。

地域の方の温かい協力のもと、繰り返し町探検に行き、分からないことは地域の方に質問して、みんなで考えて解決してきた経験から、自分たちの問題解決の力に自信をもつとともに、志々の町は自分にとって楽しく安心して生活できる場所だと実感することができた。



（学力育成の視点から）

（3）他教科とのつながりを意識したカリキュラムマネジメントによって、国語の「『ありがとう』を伝えよう」の学習では、町探検でお世話になった人に向けて手紙を書いた。相手意識をもちながら手紙を書くことで、意欲的に学習に取り組む姿につながった。

（4）「もっとたくさんの人に志々の町の良いところを伝えたい」という児童の思いから、小小交流会や学習発表会で志々の町の「きらり」を発表した。聞き手に応じてクイズを入れて発表するといった工夫をするなど、表現力が高まった。

4 課題や今後の展望

生活科の町探検を通して、自分たちも志々の町の一員であるという自覚をもつことができた。来年度は総合的な学習の時間で、生活科の町探検の学習を生かし、「どうすれば志々の町の人々の役に立てるのか」といった、地域の方との共同的な活動へと発展させていきたい。また、町探検で地域の様々な場所に歩いて行ったことで、志々地域の地形にも詳しくなった。3・4年生の社会科「わたしのまち みんなのまち」の学習につなげ、実感を伴った理解ができるようにしたい。